



娘のアメリカ留学



岩国ライオンズクラブ会員



廣本 悦子



話は 25 年前に…。娘(長女)は自分の好きな事をしたいと中学、高校で卓球選手としてインターハイ、国体に出場し、高校卒業と同時に大学、企業から声がかかりました。大学を選ぶ全日本リーグチームの A 銀行に入社。親としては大学進学を望んでいましたが親の思うようにはならないことを教えられました。

娘は全日本リーグで 6 年間頑張りました。岩国に帰省し「自分の人生の中には卓球しかない、これでは社会人の中に入れて行くことは不安だ、今度は勉強したい」と話してくれました。24 歳になっている娘、日本の大学へと思っても何か難しく、アドバイスを求められた私は娘にアメリカ留学を提案しました。娘はすぐに同意してくれました。

幸い我が家には借家に岩国基地の兵隊さんが何人か居ましたので外国に対しての偏見は有りませんでした。色々調べ、以前に借家にいらして米国に帰国された米国人パイロット教官のお宅にホームステイさせて頂くことになりました。早速お宅があるアメリカ・カリフォルニア州のサンディエゴへと向かいました。日本の高校を卒業していますがすぐに大学受験は無理なことが分かっていたので、日本で言う予備校へ一年間通いサンディエゴのグロスモント・カレッジ(短大)に入学しました。そこで 2 年間勉強し、大学入学資格試験に合格して、カリフォルニア州立大学の一つ、サンディエゴ州立大学(SDSU)へ進学することが出来ました。アメリカの大学は短大時代の成績が 4 年制大学へ持ち点として加点されるシステムが有り娘としては非常に助かりました。大学卒業後同大学の大学院に進み無事卒業することが出来ました。その後娘と同じ SDSU の大学院を卒業した日本人の彼と結婚し、現在子供二人の四大家族でサンディエゴで生活しています。

カリフォルニア州サンディエゴはメキシコ国境に近く、気候は温暖で晴天が多く雨が降るのは一年間で 10 日位、乾燥地帯ですが治安が良い為別荘が多くあり人気の土地です。



娘夫婦の大学院卒業

娘たちのアメリカ生活も 26 年に入りました。娘の長女はディズニー・アイススケートショーのオーディションに合格したので大学を休学して今世界を回っています。次女は高校 1 年生ですが毎日の登校を免除され、フィギュアスケートの練習をしながら家で勉強しています。1 週間に一度レポートを学校に提出して卒業単位を取っている様です。

サンディエゴ市の学校制度は幼児科 1 年、小学 6 年、中学 2 年、高校 4 年制です。小、中、高で早く単位が取れば高校 2 年で大学へ進むことが出来ます。日本の学校制度と異なり自分の頑張り次第でいわゆる飛び級出来るなど選択肢は色々ありますが、逆に怠ければ高校も卒業させてもらえない厳しさが有ります。



クリスマスアイスショー
(中央が次女)



ディズニーアイスショー
(赤い服が長女)

私もアメリカに行き娘から色々話を聞きますが、アメリカの国ほど自己責任の強い国は無いと思わされます。日本の様な国民健康保険制度は無く、年金制度も有りません。その為、病気になれば高額の治療費を全額自己負担しなければなりません。それに備えるには自己資金で多額の保険料を支払わねばなりません。「自分の命は自分で守る。自分の生活は自分で守る」これが米国です。

アメリカの国で「平等」を耳にすることはほとんど有りません。人それぞれの違いを通すこと(区別、差別)が当たり前です。

今の娘たちの生活、彼は商社マンで娘は日本のソロバン塾 3 教室を運営して頑張っています。グローバル化が進んだ現代、若い人達が海外から日本を見る必要があるのではないでしょうか。外国に出て何かにチャレンジし、色々経験することで人生が大きく開かれて行くことと思います。